

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	井上 和男	福祉	H2001039
	②	和田 大	経営	H2201037
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	青葉さくら保育園			
事業所連絡先	〒	189-0002		
	所在地	東京都東村山市青葉町1丁目7番地68		
	TEL	042-390-1190		
事業所代表者氏名	園長 中江 優香			
契約日	2025 年 6 月 2 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 9 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 11 月 25 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 7 月 9 日			
自己評価結果報告日	2025 年 11 月 25 日			
訪問調査日	2025 年 12 月 2 日			
評価合議日	2025 年 12 月 2 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	第三者評価を行うにあたり、職員自己評価と保護者アンケートをはじめ、事前資料や訪問調査当日の書類確認など多面的な情報収集に努めた。また、職員からも評価項目ごとにチェックが入られる評価シートを用い、集計報告書に反映させた。 訪問調査では、園内見学、保育場面の見学、経営層・専門職などからのヒアリングを実施した。 第三者性確保については、当評価機関と事業者との間には特別な関係は存在せず、中立公正な立場で調査を実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名 園長 中江 優香

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 園児・保護者から慕われ、信頼される存在であること 2) 新たな取り組みへの挑戦・チャレンジ 3) 相手を思いやり、お互いに協力する日頃の関係性を大切にする 4) 日々の保育を1つ1つ丁寧に行う
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>明るく健康的であり、優しさや温かさがベースにあること 日常の当たり前のことを丁寧・確実に実践でき、子どもたちの憧れや手本となれる存在</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの大切な”人生”に関わらせていただいていることを意識する ・愛情をしっかりそそぎ、成長を見守っていく ・保護者も支えていく大切な仕事をしている というプロ意識を持つこと

調査対象	調査日現在、本園の全96世帯(利用者総数110名)を調査対象とした。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱い、当園に複数名園児を預けている場合は、一番低年齢の園児に対しての回答とした。
調査方法	アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を園にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。
利用者総数	110
利用者家族総数(世帯)	96
共通評価項目による調査対象者数	96
共通評価項目による調査の有効回答者数	37
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	38.5

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の94.6%が「大変満足」または「満足」と回答し、「どちらともいえない」が2.7%、「不満」が2.7%であり、大変高い満足度が得られている。

項目別では、＜保育サービス＞に関する8設問は全設問において、大変高い満足度であった。特に「子どもの発達への有用性」、「園活動への子どもの関心度」では、97.3%の大変高い満足度が得られている。

＜安心・快適性＞に関する4設問は全設問において、大変高い満足度であった。特に「園の清潔な環境」では、97.3%の大変高い満足度が得られている。

＜利用者個人の尊重＞に関する3設問は全設問において、大変高い満足度であった。特に「子どもの気持ちの尊重」では、94.6%の大変高い満足度が得られている。

＜不満・要望への対応＞では、「不満や要望への対応」は大変高い満足度であったが、「外部の苦情相談窓口の案内」についてはさらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	36	0	1	0
「はい」が97.3%、「いいえ」が2.7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「たくさんの遊びやチャレンジをさせてくれて、悪いことは悪いと教え、元気にのびやかに育ててもらい、ただただ感謝ばかりです」、「園で学んできたことが家庭で発揮されていると感じることが多々あります」、「子どもの良いところ、ここを頑張っているところを伝えてくれるところが、嬉しいです」という声が聞かれた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	36	1	0	0
「はい」が97.3%、「どちらともいえない」が2.7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「絵の具遊びや泥んこ遊び、いろいろなことをやってくれる」、「年齢に沿っていて、とても充実している。また家ではやらせにくいダイナミックな遊びもたくさん取り入れてくださっている」、「その日あったことを興奮気味に話す日は、とても楽しかったのだと思います」という声が聞かれた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	33	4	0	0
「はい」が89.2%、「どちらともいえない」が10.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「子どもの発達のみならず、その日の体調などにも合わせて柔軟で細やかな調整をしてくださいます。いつも美味しそうで飽きないメニューになっています」、「どれも美味しいようで家では食べられないものも園では食べられます」、「変わらず美味しい給食だと思いますが、以前に比べ給食のバリエーションが変わった気がします。同じご飯の種類が週に何度かあつたりして少し気になりました」という声が聞かれた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	33	4	0	0
「はい」が89. 2%、「どちらともいえない」が10. 8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「暑い中でも工夫して戸外遊びの時間を設けてもらえているので、子どもも楽しんでいるようです」、「お散歩や遠足でたくさん自然と触れ合う機会がある。また隣の高齢者施設の利用者との交流がとても良いと思う」、「猛暑もあり夏の散歩はなかなか難しいと思いますが、子どもが外で遊びたがっているので、何か工夫ができればありがたいです」という声が聞かれた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	33	1	0	3
「はい」が89. 2%、「どちらともいえない」が2. 7%、「無回答・非該当」が8. 1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「利用時間の変更に関し、日々ご迷惑をおかけしていますが、当日夕方の延長の変更連絡でも、本当に温かく受け止めていただき頭が上がりません」、「ものすごく助かっています」、「残業がないため当てはまりません」という声が聞かれた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	32	5	0	0
「はい」が86. 5%、「どちらともいえない」が13. 5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「安全に関し不安を覚えたことが一度もありません。とても細やかな配慮が行き届いており、安心して預けることができます」、「園側は十分に対策しているが、保護者の一部が安全対策のルールを無視して危ない場面がある」という声が聞かれた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	34	2	1	0
「はい」が91. 9%、「どちらともいえない」が5. 4%、「いいえ」が2. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「参加の日程調整に困ったことはありません。平日に実施される保育参加の日程もこちらの都合を優先していただき、非常に助けられています」、「地域の小学校全てと運動会が重ならないようにすることは難しいと思うが、小学校の時期とずらすことも検討してほしい。職員方の家族(子ども)の運動会とも重なっていないのか気になった」、「お知らせが遅いと感じることがある」という声が聞かれた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	33	4	0	0
「はい」が89. 2%、「どちらともいえない」が10. 8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「日々の子どもの様子を情報交換するだけでなく、親が子どもの育て方に迷った時には真摯に耳を傾けて温かなアドバイスがあり、質実ともに助けていただいています」、「お迎えの時に園での姿を聞いて嬉しいです」、「特に持ち上がりの職員は、その子どもの成長の経過もよく見てくださり、安心感がある」という声が聞かれた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	36	1	0	0
「はい」が97. 3%、「どちらともいえない」が2. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「居室・水回り・お手洗いのどこも、いつも整頓され清潔で明るく、気持ち良いです」、「きちんと整理されており、掃除機もマメにかけている姿が見受けられます」、「玄関もいつもきれいで、裸足で出ていっても大丈夫なところがすごいです」という声が聞かれた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	32	4	1	0
「はい」が86. 5%、「どちらともいえない」が10. 8%、「いいえ」が2. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「職員たちがすれ違ふと挨拶を必ずしてくれるので、明るい園の印象を受けます」、「職員が皆明るく話しやすい」、「言い方、言葉づかいが強いと感じることが多々ある」という声が聞かれた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	33	4	0	0
「はい」が89. 2%、「どちらともいえない」が10. 8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「園でのケガは速やかに対応していただけます」、「病欠の時にアプリで連絡をもらい、子どものことを思ってくれているのだなと信頼できます」、「体調の面で細かく報告してくれる」という声が聞かれた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	30	5	0	2
「はい」が81. 1%、「どちらともいえない」が13. 5%、「無回答・非該当」が5. 4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「あまり子ども同士の諍いを目にすること多くなく、玩具の取り合いが起きた時に仲裁に入り、良くないことは良くないと伝えてくださる様子は見えています。脅すような態度は取らず、断固としてキツパリ伝える職員方の姿を見て、信頼を寄せられると感じています」、「やられたときはわかるが、加害しているかがわからない」、「まだ子ども同士でのトラブルを聞いたことがないため」という声が聞かれた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	35	2	0	0
「はい」が94. 6%、「どちらともいえない」が5. 4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「日によって子どもの気持ちの調子の良し悪しがある中で、ある時は宥め、ある時は励まし、ある時は諫め、よく寄り添っていただいていると感じています」、「心配な時、相談すると声かけの仕方や親が意識した方が良いところを教えてくれるので助かっています」という声が聞かれた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	32	2	2	1
「はい」が86. 5%、「どちらともいえない」が5. 4%、「いいえ」が5. 4%、「無回答・非該当」が2. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「本人以上に気にかけていただいております。全く不安がありません」、「特にそういったものがないため」という声が聞かれた。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	34	3	0	0
「はい」が91. 9%、「どちらともいえない」が8. 1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「保育内容の連絡がいつも密で丁寧で、今日は何をしたのか十分に知ることができ、毎日楽しみにしています。お迎えの帰り道の子どもの毎日のコミュニケーションの呼び水になっています」、「ほぼ毎日お知らせで写真が送られてきて、子どもの様子がわかる」、「日々のノート連絡に写真をつけて配信してくれるので、文章だけでは伝わらない部分もわかり、楽しく拝見しています」という声が聞かれた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	33	3	0	1
「はい」が89. 2%、「どちらともいえない」が8. 1%、「無回答・非該当」が2. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「苦情を伝えた際に、迅速かつ丁寧にご対応いただき、とてもありがたかったです」という声が聞かれた。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	20	5	5	7
「はい」が54. 1%、「どちらともいえない」が13. 5%、「いいえ」が13. 5%、「無回答・非該当」が18. 9%であった。自由意見では、「玄関周りのよく目につくところに、様々な支援に関するパンフレットが置かれています。幸いこれまでお世話になったことはないものの、何かあった時はこのパンフレット！と思える場所が日々の活動圏にあるのでとても心強いです」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	昭和27年に保育園を開設した法人の思いを大切に、子ども中心の保育を実施している 園では、昭和27年に保育園を開設した法人の思いを大切に、「自然の中でのびのび遊べる子ども」「心豊かで自分を表現できる子ども」「なぜ、どうしてかな?と考えられる子ども」「友達・自分を大切にできる子ども」という保育理念を踏まえた子ども中心の保育を実施している。「子どもたちが楽しく通え、すくすく成長できる保育園」「保護者がわが子を安心して預けることのできる保育園」「地域の方にも愛され、役立つことのできる保育園」という目指す姿も明示し、職員には入職時をはじめとして定期的な研修で周知を図っている。 園長は、自らの役割や責任を明確にしてリーダーシップをもって運営にあたっている 理念、保育方針、保育目標は園内に掲示し、関係者に理解を促している。保護者には、見学時や入園時、年2回開催の懇談会などで説明している。園長は、園の目指す理念、保育目標、保育方針実現に向け、業務分掌表や組織図に基づいて自らの役割や責任を明確にして、各種会議を中心に周知を図り、リーダーシップをもって運営にあたっている。常勤・非常勤に関わらず職員との面談やコミュニケーションを重視し、職員一人ひとりが自信を持ち保育にあたるように支援しているため、職員の定着率も高く、チームワークも非常に高くなっている。 意思決定に関しては、子ども・保護者・職員・地域の意向やニーズを参考にしている 意思決定に関しては、子ども・保護者・職員・地域の意向やニーズを参考に、リーダー会議で話し合った上、職員会議で決定している。同一敷地内には法人が運営する高齢者福祉施設などが隣接していることから、各施設の責任者などが出席するキャンパス会議を定期的で開催しており、園の権限を越える案件に関しては、キャンパス会議で協議・決定することとしている。決定事項は、その経緯も含めてリーダー会議や職員会議で職員に周知し、保護者には懇談会や保育支援システム、園だよりを通じて必要な情報を伝えている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>保護者や子ども、職員、地域の意向やニーズは、事業計画や園の運営に反映させている</p> <p>保護者などの意向は、連絡帳・アンケート・懇談会・個人面談などを通じて把握している。子どもの意向は日々の活動の中で把握に努め、うまく言葉にできない想いは、表情やしぐさから読み取るように努めている。職員に対しては、日々のコミュニケーションや会議、面談で把握している。地域の意向やニーズは、自治会、市の保育園連絡協議会などの関係協力機関、東京都社会福祉協議会、法人連絡会議などから把握に努め、把握した情報はリーダー会議や職員会議、キャンパス会議などで協議の上、事業計画や園の運営に反映させている。</p> <p>法人の中長期の事業計画はあるものの、園としての中長期計画も求めたい</p> <p>法人として中長期の事業計画を策定しており、それに基づいて単年度の事業計画をはじめ、全体的な計画、年間計画、行事計画、食育計画、保健計画、研修計画等を策定している。事業計画に添った予算を編成して、円滑な園運営ができるようにしている。しかしながら、事業計画や事業報告では、中長期的視点が不足しているため、園として単独の中長期計画を定める必要があると思われる。併せて中長期計画や事業計画は、進捗を適切に把握できるように数値化や重点課題の策定なども求めたい。</p> <p>事業計画などの進捗は、期・月・週の単位で振り返りを行い、確認している</p> <p>保育目標実現のために、事業計画、全体的な計画、年間計画、行事計画、食育計画、保健計画、研修計画などを策定して実践し、期・月・週の単位で振り返りを行い、進捗を確認している。保育計画は1期(4・5月)・2期(6～8月)・3期(9～12月)・4期(1～3月)の四半期ごとに具体的な計画を策定し、期ごとに評価、振り返り、次期への課題を整理しながら年度内達成に向けて取り組んでいる。事業報告も非常に簡潔であるが、職員の評価・振り返りの結果を記載することで、後々自分たちの実践を振り返る大切な資料にもなると考えられる。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

「歩実心」に守るべき事柄などをまとめ、職員は常時携帯しながら業務に就いている

法人として「コンプライアンス遵守」には力を入れており、歩実心(あゆみのこころ)に法人の職員として守るべき事柄などをまとめ、職員は常時携帯し、振り返りを行いながら業務に就いている。4月の職員会議では、保育マニュアルやあゆみのこころに基づいて再確認を行い、コンプライアンスや倫理などに対する職員の意識を高めるように努めている。定期的にマニュアル類の読み合わせをすることで注意喚起し、職員会議では園長指導のもと定期的に法令・規範・倫理について再確認し、年1回チェックリストを用いた自己点検も実施している。

苦情解決制度は周知に努め、研修や相互チェックによる虐待防止に努めている

苦情解決制度は、入園説明会で重要事項説明書に基づいて説明するほか、園内にも掲示して周知に努めている。苦情解決責任者や担当者ほかに、2名の第三者委員の氏名や連絡先を明示している。苦情が発生した場合には、法人、園、第三者委員と連携して迅速に対応することとし、苦情に至る前の希望や要望を登降園時や連絡帳、懇談会などで把握し早期解決に努めている。研修の実施や、複数担任制の相互チェックによる虐待防止に努め、家庭での虐待の疑いがあるケースには、子ども家庭支援センターと連携する体制を整えている。

地域子育て支援事業を実施し、小学校をはじめとした関係機関と連携している

子育て支援として、地域子育て支援事業の実施、定期的な見学会や説明会の実施、家庭的保育事業へ行事参加の呼びかけなどの連携を行っている。市の保育園連絡協議会に参加し、近隣保育園との連携を通じて、地域のイベントや行事へ参加している。小学校をはじめとした教育機関との連携による実習生の受け入れやボランティアの受け入れも積極的に行い、子どもの就学に向けた不安軽減にも努めている。法人内の高齢者施設との交流も大きな特色で、養護老人ホームの利用者が毎朝登園の見守りに訪れ、元気に挨拶をしてからの登園が日課となっている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>リスクに対する対応マニュアルを作成し、職員が適切に対応できるように備えている</p> <p>地震、火災、水害、不審者対応などのリスクに対して、状況に応じて優先順位をつけて必要な対策を実施している。全体的な計画には災害への備えとして、火災や地震などに対する避難訓練の実施(毎月)、消防署による視察、消火訓練の実施、被災時における対応と備蓄、事業継続計画の作成と共有、外部事業者による設備点検を定めている。事業計画には感染症に対する感染予防対策や不審者対応訓練も定め、計画的に実施している。各種リスクに対する対応マニュアルを作成し、万が一の発生時にも職員が適切に対応できるように備えている。</p> <p>ヒヤリハットを用いて予防策の立案に取り組んでいるが、更なる充実に期待したい</p> <p>園庭は広く、法人の敷地も広く、緑豊かな環境であり、散歩中の交通事故などのリスクは低いと思われるが、具体的なリスクとして想定し、職員に周知されている。全体的な計画には、環境及び衛生管理並びに安全管理の項目を設け、園内外の設備・用具等の清掃及び消毒等、子ども及び職員の清潔保持、感染予防対策の指針の作成と実施及び保護者との情報共有について定めている。安全確保への取り組みとしてヒヤリハット・事故報告書等を用いて事故の分析と対策、再発防止や予防策の立案に取り組んでいるが、ヒヤリハットの更なる充実に期待したい。</p> <p>個人情報保護の教育に取り組み、情報の収集・利用・廃棄を適切に行えるようにしている</p> <p>歩実心(あゆみのこころ)に法人の職員として守るべき事柄などをまとめ、保育マニュアルには別添として服務心得や服務規程を定めている。職員は入職時に、秘密保持誓約書を提出し、退職後においても遵守する旨を制約している。園では、個人情報保護の教育に取り組み、情報の収集・利用・廃棄を適切に行えるようにしている。ボランティアや実習生には、受け入れ時に説明し、理解を促している。個人情報に関する書類は施錠できる書庫に収納し、タブレット類も書庫や事務所で保管している。データは、権限とパスワードを設定して漏えい防止に努めている。</p>		

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-5の講評

職員一人ひとりの資質向上と保育の質向上に向けた組織的な取り組みが行われている

職員の採用に関しては、新人職員は法人で行い、そのほかの中途採用者やパート職員などについては園独自で募集・採用を実施している。職員の配置については、人事希望聴取を実施して職員個人の希望を踏まえつつ適性を考慮の上決定している。全体的な計画には、職員一人ひとりの資質向上及び職員全体の専門性向上を図るための取り組みが示され、職員に求められる専門性を理解し、保育の質の向上に向けた組織的な取り組みが行われている。具体的には、職場研修、外部研修など研修計画を作成し、研修結果の活用が図られている。

書式を見直すことで、目標管理が制度としてさらに定着すると思われる

法人ではキャリアパス制度を定め、目標管理を伴う人事制度としている。職員が目標を設定し、上長面談を通じて達成状況を確認、職員一人ひとりの経験やスキルに基づいた研修計画を策定している。研修終了後は報告書の提出を義務とし、一人の職員が学んだ内容をチームの財産とするように取り組んでいる。現在でも目標管理となつてはいるものの、書式を見直し職員一人ひとりの経験やスキル、資格、半期ごとの目標、年度目標、長期目標、自己実現目標を具体的に記入するようにすることで目標管理が制度としてさらに定着すると思われる。

働き甲斐のある職場環境作りと職員の高い接遇力が日々の活動の充実につながっている

職員の心身状態に応じたシフト調整、残業ゼロや休暇取得の促進、職員のチームワーク形成、職員の思いや体調、家庭環境などに配慮して安心して働き続けられる職場環境づくり、メンタルヘルスやハラスメント、業務効率化、研修の充実などの働き甲斐のある職場環境作りが定着している。何より約2%の離職率という高い定着率とその効果を表している。外部の人間はもちろんのこと、職員間でも出勤時のほか、すれ違いのたびにあいさつを交わすなど職員の接遇力も非常に高く、それが日々の活動の充実や保護者の高い評価につながっている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【目標】 新たな取り組みへの挑戦 「語れる保育士」の育成

【理由】 開園から12年が経過し、保育内容が安定してきたと感じる一方、これまでの取り組みを少し変化させ、異なる支援によるチャレンジが必要と感じ、保育園のことを職員一人ひとりが共通の言葉で語れることが重要と考えたため。

【取り組みと結果】

園庭やグラウンドなどを使用して、今までとは異なる場所で夏祭りや運動会を実施した。

園庭をより活用した保育の実施に取り組んだ。

夏祭りや運動会などを、園庭、グラウンド、室内での行事開催について、新たな可能性や今後の企画の幅を広げるきっかけづくりになった。

園庭やグラウンドの活用により、保育の幅が広がった。

園庭遊具のコンセプトやねらいを伝えることで、職員が共通の思いをもって語れるようになった。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【講評】

園は、緑豊かな環境にあり四季折々の自然を身近に感じることができ、法人の敷地も広く、園庭のクヌギの木には子どもたち数人が入れる秘密基地のようなツリーハウスもある。ほかの保育園からすると、羨むような環境にもある。しかし、職員はそれらのことを当たり前のこととして認識し、園の特徴や強みを意識して活用しようとは考えていなかった感もある。異なった場所で行事、園庭やグラウンドを使用した保育を実施したことで、散歩では落ち葉や木の実、虫などの豊かな自然を改めて身近に感じることができ、併設施設の高齢者が登園の見守りをしてくれることや感染症発生時にも併設施設の庭でお弁当を楽しむなどの交流ができること、グラウンドもあり外遊びを思い切り楽しめることなどの強みを再認識して保育に活かしている。

ツリーハウスも、ただ当たり前にあるのではなく、「そこに行くまでには勇気と挑戦と努力が必要であり、登れた時の達成感や成功体験を大切にしたい」というコンセプトなどを共通の思いをもって語れるように変化している。今後は、自分の勤務する園の強みや弱みをさらに知るために、見学や体験などでほかの園を知ることも必要である。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【目標】「ワクワクする保育」

【理由】日々の保育の中で、様々なことに関心を持ち、子ども職員も主体的に物事に取り組んで欲しいという願いを込めて課題とした。「ワクワク」という言葉を使うことでイメージしやすいようにしている。

【取り組みと結果】

サイエンスをテーマに、サイエンスショーを行った。

顕微鏡を購入し、散歩中や保育の中でも多く取り入れ、いつでも様々なものを観察できる環境を整備した。シラスの中のタコや皮膚等さまざまなものを観察することで、今まで何気なく見ていたものを興味・関心をもって見るようになった。

行事計画や月案などを立てる際にも、「ワクワク」する内容や取り組みを常に意識するようにした。

結果、子どもや職員自身が楽しむことで、保護者にもその楽しさが伝わり、親子の会話が増え、連絡帳での反響も大きく、保護者も巻き込みながら保育を行うことができた。

今後とも、サイエンスをテーマに、職員が主体となり子どもたちへ発信していくことで、子どもたちの意欲をさらに引き出していく。また、子どもたちとの応答的な関わりの中で、「声」を感じ取りながら保育をしていく。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【講評】

サイエンスというテーマ自体が、緑豊かな環境にあり四季折々の自然を身近に感じることができる園の環境に適している。顕微鏡がある家庭は少ないため、子どもたちにとっては新鮮な体験であったと思われる。散歩中に植物や落ち葉、木の実、虫などにより関心をもって見つめる子どもたちの姿が浮かぶようである。子どもたちの関心が高い分、当然ながら家庭でも話題となり、会話も増え、保護者にもその楽しさが伝わっている。より身近なところでルーペや双眼鏡の活用を考えがちであるが、歩きながら使用したり太陽などの方向を見たりする危険などもあり、保育の場では少しハードルが高い顕微鏡を選択したことが安全の確保にもつながっている。

子どもたちの関心や意欲を高めるためには、職員が様々なテーマを今後とも発信し続けることが必要である。また、応答的な関わりでは、子どもたちの自己肯定感や社会性を育む効果も期待できるため、今後の取り組みにも期待したい。

カブトムシやダンゴムシを飼育する園は多々あると思われるが、それより小さなものにまで子どもと職員が関心を持つ園は、稀有な存在である。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の実態があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/>非該当
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>多様な媒体を活用した園情報の発信と関係機関との情報共有に取り組んでいる 園のHPや市が発行する案内資料(しおり)を通じて基本的な運営方針や保育内容を周知するとともに、「教育・保育のしおり」やパンフレットを用いて、園の特色や日々の保育の考え方を具体的に伝えている。これらの媒体については、専門的な表現に偏らないよう配慮し、利用希望者や保護者が理解しやすい表現となるよう工夫している。また、行政や関係機関との連携として、東村山市保育連絡協議会を通じた情報共有を行い、園の状況や取り組みが関係機関にも適切に伝わるように取り組んでいる。</p> <p>見学会・説明会を通じた保育内容の丁寧な説明と柔軟な受け入れ対応に努めている 入園を検討する家庭に対しては、入園前見学会や説明会を複数回実施し、園の保育方針や生活の流れ、環境面について直接説明する機会を設けている。見学会は申し込みが集中する時期に年間5回程度実施し、1回あたり7～8組を受け入れるほか、時期が合わない家庭や個別の事情がある場合にも柔軟に対応している。見学時には園庭や保育環境を実際に見てもらい、子ども一人ひとりの個性を大切に、寄り添った保育を行っている点について、具体的なエピソードを交えながら説明することで、入園後の生活がイメージしやすくなるよう努めている。</p> <p>掲示による日常情報の可視化と今後の情報発信強化が期待される 来園者に対しては、正面玄関横やホワイトボードを活用し、市や園からのお知らせ、感染症の発生状況、不審者情報など、生活に直結する情報を分かりやすく掲示している。掲示場所や内容を整理することで、必要な情報がひと目で確認できる環境づくりに努めており、保護者が情報を得られる体制を整えている。今後は、日々の保育活動や行事の様子をよりタイムリーに発信する観点から、HPやSNSの活用を一層進め、保護者や地域の人々が園の取り組みを身近に感じられる情報発信へとつなげていくことが期待される。</p>	

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>重要事項説明と同意取得を通して丁寧な入園受け入れ対応に取り組んでいる 入園時には、重要事項説明書を用い、保育内容や園の基本的なルールについて保護者の状況に応じた説明を行っている。説明の際には、一方的な情報提供にとどまらず、保護者の理解度や不安の有無を確認しながら進めることで、内容への納得と同意が得られるよう努めている。また、保育内容については同意書を受領し、書面による確認を行う体制を整えている。さらに、入園時には面談表を用いて家庭状況や保護者の意向を把握し、聞き取った内容を記録として残すことで、その後の保育に反映できるように取り組んでいる。</p> <p>親しみ保育と担当制による入園初期の不安軽減への配慮に努めている 入園時の調査票をもとに面談を行い、子どもの生活状況や発達状況、家庭での様子などを把握している。利用開始直後は、子どもの不安やストレスを軽減することを重視し、「親しみ保育(慣らし保育)」を実施している。慣らし保育の期間については一律とせず、保護者の就労状況や家庭の事情を踏まえ、1週間を基本としながら、必要に応じて2～3週間とするなど柔軟に対応している。特に乳児については担当制を採用し、決まった職員が受け入れを行うことで、子どもが安心して園生活に慣れていけるよう配慮している。</p> <p>就学を見据えた引き継ぎと継続的支援体制の構築に取り組んでいる 就学に向けた支援として保育要録や就学支援シートを作成し、保護者および関係機関と連携しながら支援の継続性を確保している。小学校との連絡会や訪問、担任による話し合いを通じて、子ども一人ひとりの状況が円滑に引き継がれるよう努めており、環境の変化に伴う子どもや保護者の不安軽減につなげている。入園開始から卒園に至るまで、一貫して子どもと家庭に寄り添った姿勢に取り組むように努めている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	13/13
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3の講評			
家庭との情報共有を基盤とした個別ニーズの把握と計画への反映に努めている 日常的には連絡帳を通じて家庭の様子や保護者の思いを共有し、必要に応じて個別面談を行うことで、子どもや家庭のニーズ、課題を把握することに努めている。苦手な面や課題に目を向けるだけでなく、得意なことや伸びている点を大切に捉え、個別性を意識した保育に取り組んでいる。指導計画の内容については、懇談会やクラスだより、連絡帳などを通じて保護者に分かりやすく伝え、共通理解の形成に努めている。個別的な配慮が必要な子どもについては、クラス会議等で検討を行い、年齢や発達段階に応じた計画の作成・修正を行っている。			
記録に基づく子どもの育ちの把握と保育実践への活用に取り組んでいる 子ども一人ひとりに関する情報については、保育日誌、個人記録、児童票等を用いて継続的に記録している。記録内容は、指導計画に基づく具体的な保育の様子とともに、その結果として子どもの状態がどのように変化したかが分かるよう意識して記載している。個別的な配慮が必要な子どもについては、クラス会議等で検討を行い、年齢や発達段階に応じた計画の作成・修正を行っている。また、朝礼や職員会議において日々の様子を共有し、記録と実践が切り離されることのないように取り組んでいる。			
職員間での情報共有による園全体での子ども理解の深化に取り組んでいる 指導計画や個人記録については、担当職員だけでなく、関わる職員全体で共有し、保育に活かしている。子どもや家庭の状況に変化があった場合には、朝礼や職員会議、連絡ノート等を通じて申し送りをし、情報の共有を図っている。また、カリキュラム会議や乳児会議・幼児会議、クラス会議などを定期的開催し、事例を持ち寄りながら子ども理解を深める機会を設けている。これにより、特定の職員に情報が偏ることなく、園全体で子ども一人ひとりを支える体制づくりにつながっている。			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>プライバシーへの配慮を徹底した保育環境の整備に取り組んでいる</p> <p>子どものプライバシー保護については、日常の保育の中で一貫した配慮に取り組んでおり、子どもに関する情報を外部とやりとりする必要がある場合には、都度必ず保護者の同意を得たうえで対応することを徹底しており、属人的な判断に依らない運用がなされている。また、着替えやオムツ替えなどの場面では、他者の視線に配慮した環境設定や関わり方を心がけ、子どもの羞恥心を尊重した保育を実践している。連絡帳等を通じて、子どもに過度なプレッシャーを与えないよう配慮しながら家庭と連携し、子どもの気持ちや様子の共有に努めている。</p> <p>子どもの権利と意思を尊重した主体性を育む保育の実践に努めている</p> <p>サービスの実施にあたっては、子どもの権利を守り、一人ひとりの意思や思いを尊重する姿勢を大切にしている。日常の保育の中では、子どもたちの意見や気持ちに耳を傾け、主体性を尊重した関わりを行っている。入園時の調査票や連絡帳を通じて、子どもや保護者の価値観、生活習慣を把握し、それぞれの家庭背景に配慮した保育を心がけている。さらに、虐待防止や育児困難家庭への支援については、保育マニュアルの確認や職員会議での研修を通じて理解を深め、職員間で共通認識を持って対応できる体制作りに取り組んでいる。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>保育マニュアルを基盤とした業務の標準化と共通理解の形成に努めている</p> <p>園業務の標準化を図るため、保育マニュアルを整備し、園が提供する保育の基本事項や手順を明確にしている。職員は日常業務の中で、判断に迷う場面や確認が必要な場合にはマニュアルを参照することを共通認識としており、業務が特定の職員の経験や感覚に依存しない体制づくりに努めている。また、マニュアルの内容については、職員会議等の場で定期的に確認・見直しを行い、実際の保育実践との乖離が生じないよう配慮している。</p> <p>業務水準の見直しを通じて継続的な保育の質向上に取り組んでいる</p> <p>保育の質向上を目指し、標準的な業務水準については必要に応じて見直し仕組みを設けている。マニュアルや手順の改定にあたっては、職員からの意見や日々の保育の中で得られた気づき、第三者評価アンケートの結果などを参考にし、実態に即した改善が図られている。また、研修等で学んだ内容については園内で共有し、園の保育に取り入れられる点について検討するなど、学びを実践につなげようと取り組んでいる。保護者や子どもの様子を踏まえながら業務のあり方の見直しに努めており、継続的な改善を意識した運営を目指している。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
サービスの実施項目			
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(000000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの生活背景や発達過程を丁寧に捉え、園全体で共有した保育を行っている</p> <p>入園時調査表や連絡帳を通して、家庭での生活リズムや育ちの背景、保護者の思いを把握しており、それらを日々の保育に丁寧に反映できるようにしている。朝礼や乳児会議・幼児会議、非常勤職員も参加する会議を通じて、子どもの姿や気づきを職員間で共有する仕組みが整えられており、担任だけに任せず園全体で一人ひとりを理解しようとする姿勢がうかがえる。四季の変化を感じやすい環境の中で、体調や気分の変化にも配慮しながら関わることで、集団生活の中にあっても個々の育ちを尊重した保育が行われている。</p> <p>子どもの興味や発達に応じて環境づくりの工夫をしている</p> <p>乳児は室内での遊びを大切に、手作り玩具を用いて点検や必要なリメイクを行いながら、安心して遊べる環境を整えている。担任が作成したマイドールを2歳まで使用し、「自分だけのもの」として愛着を持てるよう配慮している。1歳児は新入園児と進級児でクラスを分け、生活の安定を図りながら過ごしている。2歳からは2階保育室での生活に移行するため、1歳児のうちから2階で過ごしたり、階段昇降の練習を行うなど、発達に応じた経験を積み重ねている。少人数での移動や内階段・外階段の使い分けなど、安全や避難も意識している。</p> <p>年齢や文化、個々の特性の違いを自然に受け止め、共に育ち合う関係を育んでいる</p> <p>幼児は縦割りグループ「ぐるんぱ」を継続的に実施し、年齢の異なる子ども同士が日常的に関わる機会を設けている。活動を共にする中で、年上児が年下児を気遣う姿や、年下児が憧れる気持ちが育まれている。乳児の子どもたちも、散歩や園庭遊びなどで一緒に過ごす機会があり、年齢を超えた関わりが生まれている。外国籍家庭や宗教的配慮が必要な場合には専門職と連携し、安心して園生活を送れるよう対応している。特別な配慮が必要な子どもについても、保護者の同意のもと専門機関と情報共有を行い、子どものペースを尊重した関わりを大切にしている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>家庭での生活状況を丁寧を受け止め、園での生活につなげている</p> <p>登園時には、連絡帳システムや必要に応じた口頭でのやり取りを通して、家庭での子どもの様子を把握できるようにしている。乳児クラスでは、睡眠・排泄・食事などについて、個別の返信や写真配信を行い、きめ細かな情報共有が図られている。幼児クラスでは、クラス全体への情報発信を組み合わせるなど、年齢に応じた方法での共有が行われている。口頭で受け取った内容は連絡ボードに記録し、担任間や園長とも共有する仕組みが整えられている。家庭での生活の流れを尊重しながら、園での一日を無理なく始められるよう配慮した関わりが行われている。</p> <p>基本的な生活習慣が身につくよう、発達に応じた援助を行っている</p> <p>食事や排せつ、身支度などの基本的な生活習慣について、年齢だけでなく子どもの発達段階に応じた援助を行っている。看護師による保健指導では、教材を用いて手洗いや歯みがき、食と健康について伝え、その内容を各クラスの活動につなげている。幼児クラスでは、朝の支度や帰りの準備を自分で行う時間を設けており、3歳児については保護者と連携しながら、無理のない移行を大切にしている。道具の管理や身の回りのことを自分で行う経験を重ねることで、生活への自立心が育まれるよう援助している。</p> <p>休息や睡眠に配慮し、子どもの状態に応じた生活リズムを整えている</p> <p>休息や昼寝については、年齢や当日の体調、活動量などを踏まえ、子どもの状況に応じた対応が行われている。睡眠チェック表を活用しながら見守りを行い、年長児では年明け以降、午睡時間を徐々に短くするなど、就学を見据えた配慮もなされている。眠れない子どもには無理に横になることを求めず、静かに机上遊びを用意するなど、気持ちに寄り添った対応が行われている。午後の散歩を取り入れる日もあり、一人ひとりの生活リズムを大切にしながら柔軟な保育が、生活の安定につながっている様子がうかがえる。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもの自主性を尊重し、遊びが継続して深まる環境を整えている</p> <p>子どもが自分の興味や関心に沿って遊び込めるよう、時間や空間の使い方に配慮した保育が行われている。保育室には玩具や教材が子どもの手に取りやすい位置に配置され、自由に選んで遊べる環境が整えられている。幼児クラスでは、作りかけの製作物や遊びの続きを保管できる場所を設け、遊びが途中で途切れないよう工夫している。片づけのタイミングについても、子どもと約束を交わしながら進めており、自分の遊びに責任を持つ経験につながっている。主体的に選び、繰り返し取り組む中で、遊びが深まり、生活や遊びの充実につながっている。</p> <p>言葉や表現を楽しむ経験を通して、豊かなやり取りを育んでいる</p> <p>子どもの発達段階に応じて、言葉や表情、身振りをういた応答的なやり取りを大切にしている。日常の関わりの中で子どもの発声や喃語を受け止め、やり取りを楽しむことで、言葉への関心が育まれている。幼児クラスでは、手話教室を継続的に取り入れ、ゲームや遊びを通して言葉以外の表現にも親しむ機会を設けている。しりとりや伝言遊びなどにも意欲的に取り組む姿が見られ、伝える楽しさや相手に伝える喜びを感じる経験につながっている。また、発達に合わせて廃材を使った自由な製作活動も取り入れるなど、様々な表現を楽しんでいる。</p> <p>季節や環境を活かし、主体的な遊びと学びを育んでいる</p> <p>幼児は、散歩先を子どもと一緒に考え、選ぶ機会を設けることで、活動への期待や意欲が育まれている。夏季には屋上での水遊びを日よけや風通しに配慮しながら、無理のない形で実施している。幼児遠足では、春には公園で弁当を食べる機会を設け、秋にはバスで水族館へ出かけるなど、季節や年齢に応じた体験が計画されており、活動の幅を広げている。春には玉ねぎや花の栽培にも取り組み、各クラスで季節ごとの様子をドキュメンテーションとして掲示している。生活や遊びの中ではルールを丁寧に伝え、きまりの大切さに気付けるよう援助している。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの興味や発想をいかし、行事に主体的に関われるよう工夫している 運動会やお泊り保育、お楽しみ会などの行事において、子どもが興味や関心を持って取り組めるよう工夫している。行事の内容や進め方について、子どもの好きなことや関心をもとに声をかけ、選べる場面を設けることで、自分たちの行事として意欲的に関わる姿が見られている。お泊り保育では、カレー作りなどの活動を取り入れ、日常の遊びや生活の延長として行事を位置づけている。行事を特別なものとして切り離すのではなく、普段の保育とつながりを持たせることで、子どもが無理なく参加し、楽しめる経験につなげている。</p> <p>協力して取り組む経験を通して、達成感やつながりを育てている 運動会やお楽しみ会などの行事では、準備の過程も大切にしながら、友だちと協力して取り組む経験を積み重ねている。幼児クラスでは、遊びの中で年中頃から友だち同士と一緒に取り組む機会を設け、保育者は必要に応じて見守りながら関わるようにしている。役割を分担する中で思い通りにならない場面もあるが、話し合いや経験を通して、クラス全体で一つの行事をつくり上げる姿が見られている。誕生日会では、毎月全園児がホールに集い、互いを祝う時間を持つなど、園全体の一体感が感じられる取り組みが行われている。</p> <p>保護者の理解と協力を得ながら、行事を円滑に実施している 行事の実施にあたっては、保護者が参加しやすい曜日や時間帯を設定するなど、家庭の状況に配慮した工夫を行っている。年間の行事予定は年度初めにレターなどで伝え、見直しを持ってもらえるようにしている。運動会やお楽しみ会では保護者の参加もあり、子どもの成長や行事に取り組む姿を共有する機会となっている。事前の情報提供を丁寧に行うことで、行事の目的やねらいについて保護者の理解が得られ、園と家庭が連携しながら子どもの経験を支えることができるよう取り組んでいる。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長くなる子どもが安心して過ごせる環境づくりを行っている 保育時間の長い子どもが安心して過ごせるよう、時間帯に応じた環境づくりが行われている。夕方以降は身体を休めたり、ゆったりと遊べるよう配慮し、希望による補食の提供も行っている。幼児は17時半頃までは各クラスで過ごし、乳児は18時まで各クラスで生活するなど、できる限り日中と変わらない生活の流れを大切にしている。18時以降は1階ホールに移行し合同保育とし、くつろげるスペースやホットカーペットを用意することで、落ち着いて過ごせる環境が整えられている。生活リズムを大きく崩さず、安心感を持って過ごせる配慮がなされている。</p> <p>保育形態が変わっても、子どもが楽しく過ごせるよう関わりを工夫している 保育時間が長くなる中で、保育形態と一緒に過ごす子ども、担当する保育者が変わる時間帯においても、子どもが不安を感じにくいよう配慮している。夕方は異年齢で過ごす時間となるため、保育者が仲立ちしながら遊びを広げ、年齢に応じた関わりが行われている。乳児と幼児と一緒に過ごす際には、使用する玩具やスペースを分けるなど安全面にも十分留意している。乳児クラスでは18時まではクラス保育を継続し、担当保育者もできる限り同じ職員が関わることで、安定した関係の中で過ごせるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもの発達や気持ちに寄り添い、楽しく食べられる雰囲気を大切にしている 子どもが安心して食事に向かえるよう、年齢や発達に応じた関わりを大切にしている。乳児では「楽しく食べること」を第一に考え、発達段階や食べ進みの様子に合わせて無理のない援助が行われている。0歳児は毎日、1歳児は週1回の巡回を栄養士が行い、離乳食については入園時に面談を実施するなど、個別の確認がなされている。幼児クラスでは保育者も一緒に食卓を囲み、ゆったりとした雰囲気の中で食事を楽しめるよう配慮している。子どもの気持ちや体調に寄り添った関わりが、食事への安心感につながっている。</p> <p>献立や盛り付けを工夫し、食への関心や楽しさを引き出している 栄養士や調理員が子どもの食事状況を把握しながら、献立や味付け、彩りの工夫を行っている。献立は月ごとに作成され、行事に合わせた特別食では、型抜きや盛り付けなど、見た目にも楽しめる工夫が取り入れられている。子どもが食事の時間を楽しみに行けるよう配慮されており、誕生日会のおやつでは、全員が同じものを食べられるよう米粉のホットケーキを用意するなど、食物アレルギーへの配慮も行われている。旬の食材や和食を意識した献立づくりが、食への関心を広げる取り組みにつながっている。</p> <p>食育や個別対応を通して、食への理解と安心を支えている 食物アレルギーや文化的背景に配慮した食事提供を行い、月1回のアレルギー会議では保護者と献立内容を確認している。除去食材への対応についても、アレルギー対応と同様の手順で行われ、安全面に配慮している。食育では畑やプランターで育てたトマトやキュウリなどの野菜を収穫し、調理の様子を間近で見たり、実際に味わったりする経験を取り入れている。魚の解体見学や、お泊り保育でのカレー作り、焼き芋大会など、体験を通じた取り組みも行われており、食べることへの関心や理解が自然に深まる機会となっている。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評		
<p>看護師を中心に、子どもが健康や安全に関心を持てるよう援助している 看護師が中心となり、年間保健計画に基づいた保健指導を行っている。朝のラウンドで全クラスの子どもの様子を確認し、0歳児対応や看護業務と併せて、日常的な健康観察が行われている。保健指導では、手洗いや歯みがき、体の名称、感染予防などについて、絵本や模型を活用しながら、子どもに分かりやすく伝えている。幼児クラスを中心に、プライベートゾーンや目の健康などについても段階的に伝え、自分の体を大切にする意識が育まれている。日常の保育と結びつけた関わりによって、病気やケガの予防につながっている。</p> <p>専門機関と連携しながら子どもの健康管理を行っている 医療的な配慮が必要な子どもについては、専門機関や園医と連携しながら対応している。園医による離乳食の進め方に関する助言や、体の大切な部分を守るための考え方についての指導を受ける機会があり、保育や職員研修に活かしている。職員会議では、感染症予防や嘔吐処理などについて随時確認を行い、対応方法の共有が図られている。専門的な知見を保育現場に取り入れながら、職員全体で共通理解を持ち、子どもの健康と安全を支える体制が整えられている。</p> <p>保護者と情報を共有し、継続的な健康管理につなげている 保護者との連携を大切にし、毎月の保健だよりやシステムを通して健康や感染症に関する情報提供を行っている。午睡チェックセンサーやチェック表を活用し、乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防にも取り組んでいる。アレルギー児については看護師が窓口となり、家庭と情報を共有しながら日常の対応を行っている。年長児では就学に向けた生活リズムについて伝える機会を設け、年度末には体の仕組みや命の大切さを伝える取り組みも予定されている。家庭と園が継続的に情報を共有することで、子どもが安心して過ごせる環境作りに取り組んでいる。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p>家庭状況に応じた柔軟な支援と相談しやすい関係づくりに努めている</p> <p>保護者の就労状況や育児環境、家庭背景は一律ではないという認識を職員間で共有しており、それぞれの事情に応じた柔軟な対応に努めている。送迎時には保護者に、子どもの様子を共有するとともに、必要な助言や声かけを行うなど、相談しやすい関係づくりに努め、保護者が園での生活を具体的にイメージできるよう配慮している。また、クラス懇談会や保育参加、保育参観などを通じて、保護者同士が交流できる機会を設けるとともに、保護者と職員の信頼関係を深める取り組みを行っている。</p> <p>保護者参加を通じた相互理解と子育て支援の充実に取り組んでいる</p> <p>懇談会の出席率は一定数確保されており、保育への関心や理解を高める機会として機能している。保育活動や行事への参加を通して、園の保育方針や子どもの育ちについて共通認識を持てるように努めている。連絡帳や日々のコミュニケーションを通じて、子どもの発達や育児に関する情報を共有し、保護者が抱える不安や悩みに寄り添った対応を心がけている。保護者への支援が形式的なものにとどまらず、個々の家庭に応じた関わりとなるよう配慮している。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>多世代交流と地域資源を活かした体験活動の充実に取り組んでいる</p> <p>同一敷地内にある特別養護老人ホームとの交流をはじめ、学童保育との連携による行事参加など、年齢や立場の異なる人々と触れ合う機会を設けている。特養のロビーでの交流や歌の発表会への参加を通じて、子どもが多様な世代と関わる経験を持てるように取り組んでいる。地域の畑でのさつま芋掘り体験や、地域の人々を対象とした「サクラ祭り」の開催など、地域資源を活用した行事を実施している。連携している他園の行事への参加呼びかけも行い、園外の人々と関わる機会を意識的に広げている。</p> <p>散歩活動を通じた地域との関わりと安全に配慮した環境活用に努めている</p> <p>園周辺の環境を活かした散歩活動では、近隣の公園や緑地を日常的に訪れ、季節の変化や自然物との関わりを通じて子どもの感性を育む機会としている。地域住民や公園利用者との挨拶や交流が自然発生的に行われることで、子どもが社会の一員として他者と関わる経験を積み場となっている。また、散歩ルートの安全確認や地域の危険箇所の把握については、職員間で共有し更新する体制が整備されており、地域を活かした活動が安全に実施できる運用に取り組んでいる</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	職員一人ひとりのスキルアップと、保育サービスの向上に向けて積極的に取り組んでいる	
内容①	多くの園は3年ごとに東京都福祉サービス第三者評価を受審しているが、青葉さくら保育園は毎年受審している。自助努力による改善に取り組むのみならず、第三者の視点も運営に反映させることで保育サービスの質向上に取り組んでいる。また、キャリアアップ研修の受講、救命救急研修への参加、主任保育士・保育リーダー・乳児リーダー・幼児リーダーの配置、職員面談による育成計画、園内外研修の充実、サイエンスなど新しいテーマの導入などによる職員一人ひとりのスキルアップに努め、保育サービスの質向上を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	職員間での情報共有を基盤とした保育の質の確保に努めている	
内容②	子どもの状況等に関する情報については、職員間で共有し、保育に活かす体制を整えている。指導計画や個人記録は、担当職員に限らず関わる職員全体が確認できるようにしており、子ども一人ひとりの理解を深めたうえで保育にあたっている。子どもや家庭の状況に変化があった場合には、朝礼や職員会議、連絡ノート等を活用して速やかに申し送りを行い、情報の共有を図っている。各種会議を定期的で開催し、事例を持ち寄って話し合う機会を設け、子どもの成長や変化、支援の方向性について多角的な視点から意見交換を行い、共通理解を深めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル③	年長児の就学に向けた支援として、小学校との連携を意識した取り組みを開始している	
内容③	近隣小学校への保育要録の提出や、保幼小連絡会への参加を通して、子どもの育ちや配慮事項を引き継ぐ体制が整えられている。また、連携校を定め、2月には学校訪問や交流の機会を予定するなど、子どもが就学を具体的にイメージできるような関わりが進められている。保幼小連絡会では、地区ごとのグループ活動を通して他園との情報交換や意見共有が行われており、地域全体で就学期の子どもを支える視点が広がっている。今後も継続していく意向が示されており、就学に向けた円滑な接続を意識した取り組みが園の実践として位置づけられている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	個別性を大切にした保育実践と職員・保護者との信頼関係の構築に取り組んでいる
	内容	園全体として、子ども一人ひとりの状況や思いを丁寧に捉え、個別性を大切にした保育が実践されている点が大きな強みである。記録や指導計画、連絡帳等を通じて子どもの育ちや家庭状況を把握し、それを日々の保育や支援に反映させようとする姿勢が職員間で共有されている。苦手な面や課題に着目するだけでなく、子どもの得意なことや伸びている点を積極的に見つけ、肯定的に捉える取り組みがなされている。保護者支援においては、就労状況や家庭環境が一律ではないという認識のもと、柔軟な対応に努めている。
2	タイトル	子ども一人ひとりの発達や気持ちに寄り添いながら、主体性を大切にした保育に力を入れている
	内容	遊びや生活、行事、食事、健康面に至るまで、子どもが安心して自分らしく過ごせる環境づくりが行われている。縦割り活動や散歩、製作、食育など、体験を通した取り組みが多く、子どもが「やってみたい」と感じながら関われる工夫も見られる。保護者アンケートにおいても、園の活動が子どもの心身の発達に役立っている、興味や関心を持って取り組んでいるという声が多く、園の保育の方向性が子どもの育ちにつながっていることがうかがえる。
3	タイトル	職員のチームワークが可能性を伸ばし自己肯定感を育む活動を生んでいる
	内容	安心して働き、働きがいを持てる職場を目指して、職員に応じたシフト調整、残業ゼロ、休暇取得の促進、職員のチームワーク形成、職員の思いや家庭への配慮、メンタルヘルスやハラスメント、業務効率化、研修の充実などに取り組む、高い定着率やチームワークを作っている。職員の接遇力も非常に高く、子ども一人ひとりの個性を認める保育により、保護者からも高い評価を得ている。職員のチームワークと高い接遇力が、子どもの強みを大切にしたワクワクするような活動、子どもの可能性を伸ばし自己肯定感や社会性を育む活動を生んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員間での情報共有体制を明確化し、園内運営の一層の安定化につなげる取り組みが期待される
	内容	情報共有や記録の活用については、仕組みとしては整っているものの、「誰が・いつ・どこまで確認したか」が分かりにくい場面も見受けられる。記録や掲示、システム上の情報について、確実な確認につながる工夫を行うことで、情報共有の質がさらに高まることが期待される。研修等で得た学びを園全体で共有し、実践にどう反映したかを振り返る機会を設けることや、現在の丁寧な保育実践と風通しの良い職員関係を基盤に、仕組みの「見える化」や発信力の強化を進めていくことで、園全体の取り組みがさらに安定し、発展していくことが期待される。
2	タイトル	保護者への情報提供方法の工夫を通して、理解と参加の機会をさらに広げる視点が期待される
	内容	全体として満足度は高い一方で、情報の伝え方や関わりの機会について改善を求める声も聞かれている。連絡帳への返信が十分でないと感じる保護者や、行事・園での様子を知る機会をもう少し増やしてほしいという意見が寄せられている。園が大切にしている保育の考え方や日々の取り組みについて、説明の工夫を通して、保護者の理解と共感がさらに深まり、園全体の信頼関係の一層の向上につながることを期待される。
3	タイトル	人事面談や目標管理を書式を改めることで制度として確立されたい
	内容	上長面談を通じて、職員一人ひとりの経験やスキルに基づいた研修計画を策定している。法人ではキャリアパス制度を定め、キャリアアップ研修の受講者も多い。目標管理制度を実施して、事業計画や理念実現に取り組んでいるものの、効率的・効果的ではない部分も見受けられた。現在使用している書式類を、職員一人ひとりの経験やスキル、資格、取得したい資格や受けた研修、半期ごとの目標、年度目標、長期目標、自己実現目標を具体的に記入するように変更することで目標管理が制度としてさらに定着すると思われる。